

第151回エイズ動向委員会
委員長コメント

《平成29年 年間報告（確定値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は平成29年1月1日～平成29年12月31日までの1年
2. 新規HIV感染者報告数は976件で過去11位
3. 新規AIDS患者報告数は413件で過去11位
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,389件で過去11位

【感染経路・年齢等の動向（確定値）】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが709件（全HIV感染者報告数の約73%）
 - 異性間性的接触によるものが149件（全HIV感染者報告数の約15%）
 - 静注薬物によるものは3件
 - 母子感染によるものは3件
 - 年齢別では、特に20～40代が多い。
 - 外国籍の者の報告数が152件（前年126件）
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが226件（全AIDS患者報告数の約55%）
 - 異性間性的接触によるものが99件（全AIDS患者報告数の約24%）
 - 静注薬物によるものは1件
 - 母子感染によるものは1件
 - 年齢別では、特に30歳以上が多い。なお、50歳以上が約29%を占めている。
 - 外国籍の者の報告数が44件（前年43件）

【検査・相談件数の概況（平成29年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は123,432件で過去11位
2. 保健所等における相談件数（確定値）は123,768件で過去20位

《まとめ》

1. 平成29年は新規HIV感染者報告数及び新規AIDS患者報告数は平成28年より減少して、合計数が11年ぶりに1400人を下回った。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路は、性的接触によるものがおよそ8割を占め、特に男性同性間性的接触によるものが多かった。また、国籍別に見ると、外国籍の者の報告数が増加した。HIV感染症は予防が可能な感染症である。HIVに感染していない者においては、適切な予防策をとること、HIVに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、個人においては早期治療に、社会においては感染の拡大防止に結びつくことから、重要となる。国民の皆様には、性感染症を含め、保健所の無料・匿名での相談や検査の機会を積極的に利用いただきたい。
3. 3年ぶりに複数の母子感染の報告があった。母子感染の防止には、妊婦に対するHIV抗体検査の実施や抗ウイルス療法等が重要である。妊婦健診を確実に受診していただき、医師の指示に従っていただきたい。また、妊娠中にも、性感染症に罹るリスクがあることを知っていただいた上で、適切な予防行動を取っていただきたい。
4. 献血における10万件当たりの陽性者件数は昨年に比して減少した。血液製剤によるHIV感染を防ぐため、HIV感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を積極的に利用いただきたい。
5. 新規HIV感染者・AIDS患者報告数に占めるAIDS患者報告数の割合は、約3割のまま推移している。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつく。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、引き続き利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。